

付

## 特許・実用新案登録一覧

—昭和60年度—

〈日本特許〉 60件

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
1	51-148731 (51.12.13) (林 清水)	59-23334 (59. 6. 1) (隆夫, 坂中 明彦)	1247135 (60. 1.16) (靖弘)	粉末状ゴムの製造方法	1 アニオンもしくはノニオン性のゴムラテックスに、水中で解離して負荷電を持つアニオン性水溶性高分子ならびに該アニオン性水溶性高分子と酸性雰囲気下でコアセルベーションを起生しうるところの等電点を有する両性高分子電解質、水中で解離して正荷電を持つカチオン性高分子のうちのいずれかを該ゴムラテックスの乾燥重量当り、それぞれ0.1~10重量%の範囲でアルカリ性雰囲気下に混合し、ついでこれに酸を添加して酸性雰囲気下でコアセルベーションを起こさせてゴムラテックスからゴム粒子を分離させた後をこれに該ゴムラテックスの乾燥重量当り1~50重量%のガラス転移温度30℃以上の合成樹脂をエマルジョンとして添加混合し脱水、乾燥することを特徴とする粉末状ゴムの製造方法。
2	51-153432 (51.12.22) (宮之原 河村)	59-24727 (59. 6.12) (勲, 宮崎 秀雄)	1247136 (60. 1.16) (弘)	マグネシウムを含有する塩基性塩化アルミニウム塩の製造方法	1 塩基性塩化アルミニウムの水溶液に60℃以下で軽焼マグネシアまたは水酸化マグネシウムを添加反応せしめ塩基度を55~64に調整することを特徴とするマグネシウムを含有する塩基性塩化アルミニウムの製造方法。
3	51-60156 (51. 5.26) (清田 清水)	59-25812 (59. 6.21) (徹, 浅海 明彦)	1250054 (60. 2.14) (俊一)	陽イオン交換膜の性能の向上方法	1 均質強酸型陽イオン交換膜を有機溶剤で膨潤させたのち、該膜を加熱処理しそのまま使用することを特徴とする陽イオン交換膜の性能の向上方法。
4	51-148730 (51.12.13) (林 清水)	59-1427 (59. 1.12) (隆夫, 坂中 明彦)	1250067 (60. 2.14) (靖弘)	ポリクロロプレンラテックス系接着剤組成物	1 (a)水中で、その0.2~20重量%の少なくとも一種の不飽和酸の存在下に、その0.1~80重量%のビニル系単量体をラジカル重合させ、(b)得られたビニル系重合体ラテックスに対し10~120重量%のクロロプレン単量体を加えてラジカル重合させ、(c)ついで、これにより得られたポリクロロプレンラテックスに1重量%以上のビニル系単量体もしくはビニル系単量体と不飽和酸の混合物を添加してラジカル重合を行なうことにより得られるカルボキシル基で安定化された、ポリクロロプレンラテックス、またはこれより分離して得られる粉末状ポリクロロプレンを基材とするポリクロロプレンラテックス系接着剤組成物。
5	54-120131 (54. 9.20) (板橋 鳩谷)	59-25620 (59. 6.19) (慶治, 森下 尚)	1250123 (60. 2.14) (悟)	吸蔵方法	1 一般式 ( $K_xM_yNa_z$ )( $AlO_2 \cdot SiO_2$ ) $_{12} \cdot (NaAlO_2)_\delta \cdot \omega H_2O$ (ここでMは二価金属を表わし $0 \leq \delta \leq 1$ , $\omega$ は正の数を表わす。) で表わされ、式中、カリウム、二価金属、ナトリウムの単位結晶格子中の数をそれぞれ表わす x, y, z が

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
5					$x+2y+z=12$ $3 \leq x < 10$ $1 < y \leq 4.5$ であるゼオライトとクリプトンを含む気体を加熱下、加圧下で接触させ加圧状態で冷却することを特徴とする前記ゼオライトにクリプトンガスを吸蔵させる方法。
6	54-35671 (54. 3. 28) (清水 山口)	59-27393 (59. 7. 5) (赤沢 章, 伊藤 寛)	1251613 (60. 2. 14) (道博)	電極および電解方法	1 電極面に凹凸を有する多孔板であって、谷部 $m_1 \dots m_n \dots$ 、山部 $n_1 \dots n_n \dots$ の波線が縦方向に互に平行なW型連続形状をとり、且つ厚み方向の縦横断面の形状のいずれもがW型連続波形状をとる被電解溶液の電解用電極。 隔膜を陰陽極間に配置し、陽極室および陰極室に分割した電極槽中で被電解溶液を電解するに際し、電極面に凹凸を有する多孔板であって、谷部 $m_1 \dots m_n \dots$ 、山部 $n_1 \dots n_n \dots$ の波線が縦方向に互に平行なW型連続形状をとり、且つ厚み方向の縦横断面の形状のいずれもがW型連続波形状をとる電極を陰陽極のいずれか又は両方の電極として用いることを特徴とする電解方法。
7	55-32679 (55. 3. 17) (鈴木 兼重)	59-28368 (59. 7. 12) (泰治, 佐古 洋右, 佐伯 純)	1251620 (60. 2. 14) (秀典)	農業用フィルム	1 エチレンの単独重合体または共重合体制の基材と熱可塑性ゴムを成分として含むシリコンゴム組成物との混合物からなる農業用フィルム。
8	56-305 (56. 1. 7) (毛利 小柴 吉田)	59-29678 (59. 7. 21) (隆, 崎山 淳治, 杉森 節夫)	1253932 (60. 3. 12) (和孝 正敏)	電解用陰極の製造方法	1 金属からなる基本表面に、ニッケルメッキ浴リットル当り、 1) ニッケル塩0.1~2.0モル 2) チオ尿素及び/又は硫黄の酸化数が5以下のオキソ酸塩の少なくとも1種からなる化合物を用い、該化合物中の硫黄量で0.01~1.0モル、 3) アンモニウムイオンを前記硫黄量に対して0.5倍モル以上、 存在させて、ニッケルメッキを行い、次いで50~500℃で熱処理を施すことを特徴とする電解用陰極の製造方法。
9	52-46888 (52. 4. 25) (喜多 清水)	59-33147 (59. 8. 14) (篤, 坂中 明彦)	1257010 (60. 3. 29) (靖弘)	グラフト化ポリクロロブレン接着剤組成物	1 (イ)ビニル単量体をポリクロロブレンにグラフト重合させて得られるグラフト化ポリクロロブレン(ロ)必要に応じ金属酸化物、老化防止剤、充てん剤等公知の添加剤および(ハ)有機溶剤からなるグラフト化ポリクロロブレン接着剤に一般式 $Ra-Sn-X_4-a$ [ここでXは S, Cl, OH, R', OR', SR', SR' COOR'', OOCR' または OOCCH=CH-COOR' (この場合 R', R'' はそれぞれ炭素数1~20個のアルキル基, アリール基, またはハロゲン置換アリール基を表わす。) でありRは炭素数1~20個のアルキル基, アリール基, またはハロゲン置換アリール基であり, aは1~3の整数である。] で示される有機スズ化合物の少なくとも一種を該接着剤100重量部当り0.005~1.0重量部配合してなる貯蔵安定性のすぐれた接着剤組成物。

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
10	52-55294 (52. 5. 16) (川上 加藤)	59-34136 (59. 8. 20) 登, 伊藤富士隆 明美, 後藤 武司)	1257011 (60. 3. 29)	モリブデンの分離回収方法	1 酸化鉄及び/又は水酸化鉄, ならびにモリブデン酸化物を含む混合物からモリブデンを分離回収する方法において, 酸化アルミニウム及び/又は酸化珪素を前記混合物に添加し加熱してモリブデンを分離する事の特徴とするモリブデンの分離回収方法。
11	53-44298 (53. 4. 17) (蔵本 新井)	59-34737 (59. 8. 24) 憲一, 上野 喜美 文夫, 村山 浩)	1257017 (60. 3. 29)	顔料の表面処理方法	1 有機または無機顔料の水懸濁液に, 第1段階として, 界面活性剤を添加し, 顔料に吸着させ, 次に過剰の金属イオンを加えて界面活性剤のアルカリ金属イオンとイオン交換させ顔料表面を被覆し, 第2段階として, イオン交換後残余の金属イオンを水に対して実質的に不溶性の金属塩として顔料表面をさらに該金属塩で被覆することを特徴とする顔料の表面処理方法。
12	53-64320 (53. 5. 31) (浅海 清水)	59-34425 (59. 8. 22) 俊一, 清田 徹 明彦)	1257021 (60. 3. 29)	塩化アルカリ電解用陽イオン交換膜の性能回復方法	1 塩化アルカリ水溶液の電解に用いたパーフルオロカーボン系陽イオン交換膜を水と混和性があり, かつ 760 mmHg 下で120°C以上の沸点を有する飽和脂肪族多価アルコールから選ばれる有機溶媒中に浸漬したのち, 平滑板にはさみ, 40°C~180°Cの範囲で加熱処理し, さらに塩酸で処理したのち, 苛性ソーダ水溶液中に浸漬することを特徴とする陽イオン交換膜の性能回復方法。
13	55-168681 (55. 11. 29) (平賀 要一, 渡辺 修)	59-33527 (59. 8. 16)	1257035 (60. 3. 29)	リン酸の溶媒抽出法	1 $P_2O_5$ 45 wt% 以上の不純リン酸水溶液と溶媒とを, 硫酸の存在下で, 向流抽出操作によって接触させてリン酸分を溶媒に抽出させる方法において, (a) 溶媒として, 水の溶解度 3~10 wt% のもの(ただし, リン酸エステルを除く)を使用し, かつ, (b) 水相の $H_3PO_4$ 濃度 0.5~3 mol/l の範囲において, おなじ個所の水相の遊離硫酸濃度 (Y (mol/l)) と $H_3PO_4$ 濃度 (X (mol/l)) とが $5.0 - 0.83X \geq Y \geq 2.5 - 0.83X$ の関係を満足するように, 水相の $H_3PO_4$ 濃度 3 mol/l 以下の個所に硫酸を添加することを特徴とする, リン酸の溶媒抽出法。
14	56-86890 (53. 6. 8) (青木 宇多)	59-32492 (59. 8. 9) 哲也, 兼重 洋右 純)	1257043 (60. 3. 29)	農業用フィルム	1 オレフィン系樹脂からなる基材100重量部に対して硫酸バリウム1~20重量部を添加混合してなる農業用フィルム。
15	52-53201 (52. 5. 11) (大鶴 雅昭, 齊藤 光高)	59-36921 (59. 9. 6)	1260854 (60. 4. 25)	石油樹脂の製造方法	1 石油精製あるいは石油分解で得られる芳香族系の不飽和炭化水素を含んだ沸点100ないし300°Cの留分をハロゲン化アルミニウムと1, 2-グリコール環状エーテル及び/または1, 3-グリコール環状エーテルとからなる触媒系を用いて重合することを特徴とする相溶性あるいは溶解性にすぐれ, さらに色相の良好な石油樹脂の製造方法。
16	53-85027 (53. 7. 14)	59-38991 (59. 9. 20)	1260895 (60. 4. 25)	被覆キナクリドン顔料	1 キナクリドン粒子核上に複数個の界面活性剤分子の親水基又は疎水基を吸着させ, 界面活

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
16	(蔵本 吉崎)	憲一, 上野 美由, 村山	喜美 浩)		性剤層を形成し, 該核上の界面活性剤空隙部分に不溶性金属塩を充填し充填層を形成し, かつ界面活性剤の親水基に二価以上の金属イオンを結合してなる被覆キナクリドン顔料。
17	54-112376 (54. 9. 4) (村上 井川)	59-38162 (59. 9. 14) 次雄, 菊地 一成)	1260934 (60. 4. 25) 光雄	次亜塩素酸カルシウム 組成物	1 次亜塩素酸カルシウム二水化物の品出の際, 種晶として次亜塩素酸カルシウム二水化物の a, b, c 各軸の比が, $0.5 \leq b/a \leq 2.0$ $c/a \geq 1.5$ であり, かつ c 軸が5ミクロン以上である柱状次亜塩素酸カルシウム二水化物を添加して得られた粗大次亜塩素酸カルシウム二水化物の湿潤ケーキに水分除去剤を添加して得られる次亜塩素酸カルシウム含量が60~80重量%, 自由水含量が5重量%以下である次亜塩素酸カルシウム組成物。
18	51-65664 (51. 6. 7) (井川 一成)	59-44102 (59. 10. 26) 一成, 菊地 光雄)	1264737 (60. 5. 16)	イオン交換樹脂の再生 法	1 交換基の全部, 又は一部が塩素酸型になっている強塩基性陰イオン交換樹脂から塩素酸イオンを脱着させるに際し, 食塩水を隔膜法で電気分解して陰極室から得られる隔膜法食塩水電解液を用いることを特徴とするイオン交換樹脂の再生法。
19	54-13335 (54. 2. 9) (井川 山根)	59-41922 (59. 10. 11) 一成, 菊地 昭)	1264771 (60. 5. 16)	臭素の回収方法	1 臭素を含有するガスから臭素を回収するに際し, 臭素を含有するガスと強塩基性陰イオン交換樹脂とを接触させる工程, 臭素を吸着した該樹脂を60~130℃に加熱して臭素を脱着する工程とから成る臭素の回収方法。
20	51-12245 (51. 2. 9) (坂本 中村)	59-46934 (59. 11. 15) 光久, 長浜 重男, 木原	1266968 (60. 5. 27) 武敏 啓一)	メタクリル酸の製法	1 メタクロレインを分子状酸素または分子状酸素を含有する混合ガスにより気相接触酸化してメタクリル酸を製造する際に, 一般式 $Mo_aV_bP_cCe_dCu_eX_fO_g$ (ここで X は Mn, Fe, Co, Sn, Te の中の少なくとも一種の元素を表わすとともに, 添字 a, b, c, d, e, f, g はそれぞれ各元素の原子比を表わし, a=12のとき, b=0.01~2, c=0.1~3, d=0.01~2, e=0.01~2, f=0~2, g は各元素の原子価によって自然に定まる数値で通常36~58の値をとる) で表わされる組成を有する多元素複合酸化物を使用することを特徴とするメタクリル酸の製造法。 2 メタクロレインを分子状酸素または分子状酸素を含有する混合ガスにより気相接触酸化してメタクリル酸を製造する際に, 一般式 $Mo_aV_bP_cCe_dCu_eX_fO_g$ (ここで X は Mn, Fe, Co, Sn, Te の中の少なくとも一種の元素を表わすとともに, 添字 a, b, c, d, e, f, g はそれぞれ各元素の原子比を表わし, a=12のとき, b=0.01~2, c=0.1~3, d=0.01~2, e=0.01~2, f=0~2, g は各元素の原子価によって自然に定まる数値で通常36~58の値をとる) で表わされる組成を有する多元素複合酸化物に, 二塩基性カルボン酸類, オキシカルボン酸類, マンニットおよびピロガロールの中の

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
20					少なくとも一種を添加して調製した多元素の複合酸化触媒を使用することを特徴とするメタクリル酸の製造法。
21	52-39533 (52. 4. 8) (中沢 村山)	59-44203 (59.10.27) (秀昭, 新谷 浩)	1266969 (60. 5. 27) (孝 司)	コンクリート型枠用離型剤	1 1) 石油樹脂 10~65 wt%, 2) 石油系炭化水素油 30~5 wt%, 3) 水 60~30 wt%, 4) 前記1)と2)の混合物100重量部当り1~10重量部の界面活性剤からなる事の特徴とするエマルジョン型コンクリート型枠用離型剤。
22	55-53634 (55. 4. 24) (西崎)	58-1692 (58. 1. 12) (克巳, 鈴木)	1266972 (60. 5. 27) (祐二)	接着性樹脂組成物	1 カルボキシル化エチレン-酢酸ビニル共重合体及び/またはカルボキシル化エチレン-酢酸ビニル共重合体けん化物とポリエチレンイミンとを配合してなる接着性樹脂組成物。
23	56-62577 (56. 4. 27) (続木)	59-45645 (59.11. 7) (建治)	1266975 (60. 5. 27)	殺線虫剤	1 4-クロロ-2-ブチニル-メチルフェニルエーテル類を有効成分として含有することを特徴とする殺線虫剤。
24	56-67483 (57. 4. 23) (磯和 森 西村 木原 佐藤平次郎) (相模中央化学研究所と共願)	59-43159 (59.10.19)	1266976 (60. 5. 27)	アミノ酸エステルの光学分割方法	<p>1 (1) 一般式</p> $\begin{array}{c} R_1 \\   \\ O \quad NH \quad O \\    \quad   \quad    \\ HOC-(CH_2)_n-CH-COH \end{array}$ <p>で表わされるN-置換モノアミノジカルボン酸（式中 R<sub>1</sub> は脂肪族オキシカルボン基, 核置換基を有することのあるベンジルオキシカルボニル基, ベンゾイル基, 芳香族スルフォニル基又は芳香族スルフェニル基であり, nは1又は2である）と, 一般式</p> $\begin{array}{c} O \\    \\ H_2 N-CH-C-R_3 \end{array}$ <p>で表わされるアミノカルボン酸エステル（式中 R<sub>2</sub> はメチル基, イソプロピル基, イソブチル基, イソアミル基又はベンジル基であり, R<sub>3</sub> は低級アルコキシ基, ベンジルオキシ基又はベンズヒドリルオキシ基である）の DL-体とを水性媒体中蛋白分解酵素の存在下で反応させ, 更に生成したジペプチドエステルと一般式</p> $\begin{array}{c} O \\    \\ R_3-C-CH-NH_2 \end{array}$ <p>で表わされるアミノカルボン酸エステル（式中 R<sub>2</sub>, R<sub>3</sub> は前記同様である）との, 一般式</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
24				$R_3-\overset{\overset{O}{\parallel}}{C}-\underset{\underset{R_2}{ }}{CH}-NH_2 \cdot HO\overset{\overset{O}{\parallel}}{C}-(CH_2)_n-\overset{\overset{R_1}{ }}{NH}-\overset{\overset{O}{\parallel}}{C}-NH-\underset{\underset{R_2}{ }}{CH}-\overset{\overset{O}{\parallel}}{C}-R_3$	<p>で表わされる付加化合物 (式中 <math>R_1</math>, <math>R_2</math>, <math>R_3</math> 及び <math>n</math> は前記同様である) を形成させてこれを分離し分離されたこの付加化合物に酸を加えて分離して, D-型又はD-型に富む一般式</p> $\begin{array}{c} O \\ \parallel \\ R_3-C-CH-NH_2 \\   \\ R_2 \end{array}$ <p>で表わされるアミノカルボン酸エステル (式中 <math>R_2</math> 及び <math>R_3</math> は前記同様である) を回収することを特徴とするアミノカルボン酸エステルの光学分割方法。</p>
25	50-7307 (50. 1. 16) (永野 峰雄, 吉田 広)	59-40808 (59. 10. 3)	1269673 (60. 6. 25)	塩化ビニル単量体の回収方法	<p>1 メチルクロライドを含む塩化ビニルモノマーを固体吸着剤を充填した1次充填塔に導入し該吸着剤に塩化ビニルモノマーを吸着させ, 1次充填塔の吸着剤が塩化ビニルモノマーで破過される以前に前記塩化ビニルモノマーの導入を止め, 次いで不活性ガスを1次充填塔および, 1次充填塔に直列に連結した, 1次充填塔より少ない断面積の2次充填塔に導入してメチルクロライドを展開して分離除去し, 吸着剤から塩化ビニルモノマーを回収することを特徴とするメチルクロライドを含む塩化ビニルモノマーから塩化ビニルモノマーの分離回収方法。</p> <p>2 固体吸着剤を充填した1次充填塔とこれに直列に連結し, かつ1次充填塔より少ない断面積の2次充填塔からなる低沸点成分を含む塩化ビニルモノマーから塩化ビニルモノマーを分離回収する装置。</p>
26	51-143487 (51. 12. 1) (川上 登, 後藤 武司 平野 逸雄, 板倉 洋一)	59-42061 (59. 10. 12)	1269722 (60. 6. 25)	製錬用添加剤の製造方法	<p>1 マグネシウム酸化物を炭素還元し得られた反応生成物を大量の不活性ガスと接触させて急冷して得たマグネシウム酸化物を含む金属マグネシウムを成型し, 不活性雰囲気中でこれを加熱することを特徴とする製錬用添加剤の製造方法。</p>
27	51-143488 (51. 12. 1) (川上 登, 後藤 武司 平野 逸雄, 板倉 洋一)	59-42047 (59. 10. 12)	1269723 (60. 6. 25)	製錬用添加剤の製造方法	<p>1 マグネシウム酸化物を高温炭素還元し得られる反応生成物を, 大量の不活性ガスと接触させて急冷し得られたマグネシウム酸化物を含む金属マグネシウムを, 有機高分子物質を粘結剤として成型することを特徴とする製錬用添加剤の製造方法。</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
28	53-136666 (53.11. 8) (笠井	59-30645 (59. 7.28) 清, 月館	1270621 (60. 6.25) 隆明)	高純度 $\alpha$ 型窒化珪素の製造法	1 -30°Cを越えて70°C以下の温度で四塩化珪素およびアンモニアを気相で反応させて得た含窒素シラン化合物を窒化珪素で形成された炉内で加熱することを特徴とする高純度 $\alpha$ 型窒化珪素の製造法。
29	55-103111 (55. 7.29) (西崎	59-51577 (59.12.14) 克巳, 森下	1274135 (60. 7.31) 延男)	接着方法	1 ポリエステル樹脂とポリエステル樹脂あるいは他の基材を接着する方法において、エチレン-酢酸ビニル共重合体あるいはそのケン化物100重量部に対し、フェノール樹脂20~30重量部を配合してなる樹脂組成物を接着材として用いることを特徴とする接着方法。
30	55-107092 (55. 8. 6) (西崎	59-51578 (59.12.14) 克巳, 森下	1274136 (60. 7.31) 延男)	接着方法	1 ポリエステル樹脂とホリエステル樹脂あるいは他の基材を接着する方法において、エチレン-酢酸ビニル共重合体のケン化物100重量部と、ブロックされたポリイソシアネート化合物0.01~5重量部からなる樹脂組成物を接着剤として用いることを特徴とする接着方法。
31	56-51768 (56. 4. 8) (西崎	59-52915 (59.12.21) 克巳, 森下	1274143 (60. 7.31) 延男)	接着方法	1 塩化ビニル系樹脂と塩化ビニル系樹脂あるいは他の基材を接着する方法において酢酸ビニル含有量30~65重量%, メルトインデックス10~400 g/10 min のエチレン-酢酸ビニル共重合体45~90重量部の存在下に塩化ビニルモノマーもしくは塩化ビニルモノマーを主体とするモノマー混合物55~10重量部をグラフト重合することにより得られるグラフト共重合体を接着剤として用いることを特徴とする加熱加圧して接着する接着方法。
32	56-64145 (56. 4.30) (平橋	59-52902 (59.12.21) 宗勝, 須田	1274144 (60. 7.31) 進	塩化ビニル系樹脂組成物	1 塩化ビニル(A), 炭素数2~10の $\alpha$ -オレフィン(B)及び高級アルキルビニルエーテル(C)より成り、重合の際に  $t-C_9H_{12}COO-C \begin{matrix} \text{O} \\ \parallel \\ \text{C} \end{matrix} \begin{matrix} \text{CH}_3 \\   \\ \text{C} \end{matrix} \begin{matrix} \text{CH}_3 \\   \\ \text{C} \end{matrix} \text{---} \text{C}_6\text{H}_4$ を主開始剤として用いて製造した平均重合度(P)が2000以上の塩化ビニル共重合樹脂100重量部に可塑剤を50重量部以上を添加し、重合体中における組成比率の(A)の重合:(B)及び(C)の合計重量比が99.3~95.0:0.1~5.0である粉末色調及び熱安定性と成形加工性及び機械物性に優れる塩化ビニル系樹脂組成物。
33	55-48089 (55. 4.14) (三谷	59-51932 (59.12.17) 道治)	1276723 (60. 8.16)	ハロベンゼン類とオレフィン類との付加化合物の製造方法	1 ハロベンゼン類とオレフィン類を銅化合物触媒の存在下で、かつ紫外線含有光線の照射下で反応させることを特徴とするハロベンゼン類とオレフィン類との付加化合物の製造方法。
34	51-92299 (51. 8. 4) (井村	60-3098 (60. 1.25) 信一, 斎藤	1279382 (60. 8.29) 光高	低温ヒートシール性のすぐれた樹脂組成物	1 エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下, $\alpha$ ・ $\beta$ -不飽和カルボン酸および/またはその無水物と一般式

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
34					$\text{CH}_2=\text{C} \begin{array}{l} \nearrow \text{X} \\ \searrow \text{Y} \end{array} \quad (\text{ただしX, Y}$ <p>は異種または同種で、水素、塩素、アルキル基、アセトキシ基、カルボン酸エステル基からなる群から選ばれる)を有する少なくとも一種のビニリデン単量体を共重合することによって得られるカルボキシル化エチレン-酢酸ビニル共重合体100重量部に対して、スチレン、<math>\alpha</math>メチルスチレン、ビニルトルエン、ビニルキシレン、インデン、メチルインデン、エチルインデン、ブテン、ペンテン、ヘキセン、ブタジエン、シクロペンタジエン、オクタジエン等を含むナフサ分解油を重合した石油樹脂をニッケル-ケイソウ土、ラネーニッケル、酸化白金、ラネーコバルトの存在下に水素を可及的に反応させた水添石油樹脂である、脂環族飽和炭化水素を骨格あるいは側鎖として含む石油樹脂3~100重量部を配合してなる樹脂組成物。</p>
35	54-148993 (54. 11. 19) (後藤 平野 河原)	60-1936 (60. 1. 18) (武司, 川上 逸雄, 板倉 祐路)	1279477 (60. 8. 29) (登 洋一)	マグネシウム合金の製造方法	1 マグネシウム酸化物を高炭素還元し、得られた反応生成物の急冷の際、マグネシウムと合金を形成する金属を、前記急冷ガスと同伴させて又は、させずに急冷部に導入して混合し、前記反応生成物を急冷し得られたマグネシウムおよびマグネシウムと合金を形成する金属との混合物を熱処理することを特徴とするマグネシウム合金の製造方法。
36	54-164004 (54. 12. 19) (西崎克己, 鈴木 祐二)	59-2453 (59. 1. 18)	1279478 (60. 8. 29)	接着性樹脂組成物	1 酢酸ビニルを1~40重量%含むエチレン-酢酸ビニル共重合体および/またはそのけん化物100重量部にポリエチレンイミン1~50重量部を配合してなる接着性樹脂組成物。
37	53-37468 (53. 4. 1) (後藤 平野)	59-53337 (59. 12. 24) (武司, 川上 逸雄, 板倉 洋一)	1280995 (60. 9. 13) (登 洋一)	金属マグネシウムの製造装置	1 マグネシウム酸化物を炭素還元し、反応生成物を冷却する金属マグネシウム製造装置において、冷却ガス導管内径より小さくなる該ガス噴出口内径を持つ1次冷却ガス吹込ノズル、該ノズルに相対して冷却ガス及び反応生成物の出口を設け、該出口に接続した、2次冷却ガス吹込口を有する冷却室からなる金属マグネシウムの製造装置。
38	53-64321 (53. 5. 31) (浅海 清水)	60-2909 (60. 1. 24) (俊一, 清田 明彦)	1280997 (60. 9. 13) (徹)	塩化アルカリ電解用陽イオン交換膜の性能回復法	1 塩化アルカリ水溶液の電解に用いたパーフルオロカーボン系陽イオン交換膜をポリエチレングリコール中に浸漬したのち、平滑板にはさみ、40℃~180℃の範囲で加熱処理しさらに塩酸処理したのち、苛性ソーダ水溶液中に浸漬することを特徴とする陽イオン交換膜の性能回復法。
39	52-73829 (52. 6. 23) (井川 菊地)	60-3003 (60. 1. 25) (一成, 斉藤 光雄)	1282765 (60. 9. 27) (博行)	炭酸ソーダー水塩を製造する方法	1 隔膜法塩水電解槽の陰極室から得られる電解液に炭酸ガスを反応させ該電解液中のカ性ソーダを一部炭酸ソーダに転化する第一工程、第一工程で得た溶液とライト灰(軽灰)および



No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
39					後述の第四工程で得られるセスキ炭酸ソーダと結晶槽で反応させ炭酸ソーダー水塩を析出させる第二工程、第二工程で得たスラリー結晶と母液とに分離し必要に応じて洗浄する第三工程、第三工程で得た母液に炭酸ガスを反応させセスキ炭酸ソーダを析出させ該結晶を第二工程に供給する第四工程とからなる炭酸ソーダー水塩を製造する方法。
40	52-46889 (52. 4. 25) (喜多 清水)	60-8716 (60. 3. 5) (篤 坂中 明彦)	1284042 (60. 9. 27) (靖弘)	ポリクロロプレン接着剤組成物	1 (イ)ポリクロロプレン(ロ)必要に応じて金属酸化物、老化防止剤、充てん剤等公知の添加剤および(ハ)有機溶剤からなるポリクロロプレン接着剤に一般式 $Ra-Sn-X_{4-a}$ [ここでXは S, Cl, OH, R', OR', SR', SR'COOR'', OOCR' または OOCCH=CH-COOR' (この場合 R', R'' はそれぞれ炭素数 1~20個のアルキル基, アリール基またはハロゲン置換アリール基を表わす。) であり, Rは炭素数 1~20個のアルキル基, アリール基またはハロゲン置換アリール基であり, a は 1~3 の整数である。] で示される有機スズ化合物の少なくとも一種を該接着剤100重量部当り0.001~1.0重量部配合してなる任意のイソシアナート反応性を有する接着剤組成物。
41	52-104760 (52. 9. 2) (草川 後藤 板倉)	60-9084 (60. 3. 7) (隆次, 川上 登 武司, 平野 逸雄 洋一)	1284047 (60. 9. 27)	溶鉄の脱硫法	1 溶鉄を脱硫するに当り, 超微粉金属マグネシウム及び酸化マグネシウムを含む混合物又はその成形体を添加することを特徴とする溶鉄の脱硫法。
42	52-109449 (52. 9. 13) (清田 徹, 高橋 浅海)	60-9053 (60. 3. 7) (俊一, 清水)	1284048 (60. 9. 27) (堅二 明彦)	陽イオン交換膜の製造方法	1 アミンと含ハロゲンモノマーとの反応物にカルボン酸基, フェノール性 OH 基および/またはスルホン酸基あるいはカルボン酸基, フェノール性 OH 基および/またはスルホン酸基に転換できる基を結合しているビニルモノマーおよび/またはジエンモノマーを添加, 必要あらばさらに架橋剤, ラジカル開始剤あるいは増感剤を添加した混合物を側鎖にスルホンイルハライド基を有するフッ素系重合体膜に含浸あるいは塗布し, アミノ基とスルホンイルハライド基を反応させたのち, 重合すること, さらにカルボン酸基, フェノール性 OH 基および/またはスルホン酸基に転換できうる基を結合しているビニルモノマーおよび/またはジエンモノマーを用いた場合にはカルボン酸基, フェノール性 OH 基および/またはスルホン酸基に転換することを特徴とする陽イオン交換膜の製造方法。
43	53-12295 (53. 2. 8) (清田 徹, 高橋 浅海)	60-9529 (60. 3. 11) (俊一, 清水)	1287303 (60. 10. 31) (堅二 明彦)	陽イオン交換膜の製造方法	1 スルホン酸基および一種またはそれ以上のスルホン酸基より酸性度の弱い陽イオン交換基を有する, フロロカーボン重合体より成る陽イオン交換膜であってスルホン酸基の, 全交換基数に対する割合が, 一方の面の表層部 (A層) において, 他方の面の表層部 (B層) よりも大きいことを特徴とする陽イオン交換膜にカルボ

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
43					ン酸基またはカルボン酸基に転換し得る基を結合しているジエン誘導体を含浸し、部分重合せしめたのち、該膜を水と混和性がありかつ760 mmHg 下で30℃以上の沸点を有する有機溶媒中に浸漬したのち、該膜を平滑板にはさみ50℃～180℃の範囲で加熱処理することおよびカルボン酸基に転換し得る基を結合しているジエン誘導体を用いたときはさらにカルボン酸基に転換することを特徴とする陽イオン交換膜の製造方法。
44	53-12297 (53. 2. 8) (清田 徹, 高橋 堅二 浅海 俊一, 清水 明彦)	60-9530 (60. 3. 11)	1287304 (60. 10. 31)	改良された陽イオン交換膜の製造方法	1 陽イオン交換基としてスルホン酸基よりも酸性度の弱い交換基を少なくとも1種有するフルオロカーボン重合体膜にカルボン酸基および/またはカルボン酸基に転換しうる基を結合しているジエン誘導体を含浸し、部分重合せしめたのち、有機溶媒で該膜を膨潤せしめ、次いで加熱処理することおよびカルボン酸基に転換しうる基を結合しているジエン誘導体を用いたときはさらにカルボン酸基に転換することを特徴とする改良された陽イオン交換膜の製造方法。
45	50-64846 (50. 5. 31) (森 忠芸, 天満 覚 川上 登)	60-12283 (60. 4. 1)	1288380 (60. 11. 14)	硫酸第一鉄アンモニウムから有価成分の回収方法	1 重金属類を含む硫酸第一鉄アンモニウムを水で溶解し、アルカリ又はアルカリ水溶液を用いてクロム分を沈澱分離後、鉄分は含酸素ガスを用いて酸化し、該鉄分を有機中性りん酸塩により抽出分離し、次いで抽出液から鉄分を回収することを特徴とする硫酸第一鉄アンモニウムから有価成分の回収方法。
46	51-25026 (51. 3. 10) (永野 峰雄, 南出 博)	60-12328 (60. 4. 1)	1288382 (60. 11. 14)	重合体又は共重合体中の残存単量体除去回収方法及び装置	1 重合体又は共重合体の粉体又はスラリー中の残存単量体を除去回収する方法において、前記粉体又はスラリー仕込口及び/又は取出口に、スクリーフィーダー及び同フィーダーの回転軸と、軸が並行でかつ、同フィーダーの上部に概ね隣接した位置に複数個の回転羽根をもつ回転体を併設した粉体シールを行なう装置を用いることを特徴とする重合体又は共重合体中の残存単量体除去回収方法。 2 重合体又は共重合体の粉体又はスラリー中の残存単量体を除去回収する装置において、前記粉体又はスラリーの仕込口及び/又は取出口に、スクリーフィーダー及び同フィーダーの回転軸と、軸が並行でかつ、同フィーダーの上部に概ね隣接した位置に複数個の回転羽根をもつ回転体を併設したことを特徴とする重合体又は共重合体中の残存単量体除去回収装置。
47	54-128470 (54. 10. 6) (清田 徹, 佐藤 孝男)	60-13436 (60. 4. 6)	1288422 (60. 11. 14)	イオン交換膜の装着方法	1 フィルタープレス型電解槽にイオン交換膜を装着するに際し、陽極室枠と陰極室枠のフランジ面に設置するパッキンに接触する部分を乾燥させた状態で装着することを特徴とするイオン交換膜の装着方法。
48	52-28645 (52. 3. 17) (門木 宏道, 天満 覚 伊藤富士隆, 川上 登)	60-14089 (60. 4. 11)	1291622 (60. 11. 29)	有価金属成分の分離回収方法	1 モリブデンを含む合金スクラップ及び/又はモリブデンを含む鉱石又は鉱石からの半製品を溶融し、酸素吹錬した後水砕した水砕物を塩素化して得た金属塩素化物溶液を、有機リン化